

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域との関係の維持に努め、安心した生活を過ごす事ができる様、取り組んでいる。	○	地域への発信、交流の機会を図り更に深めて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が目指すものを職員同士意識し、ケアに努めている。ミーティングを含め、折りに触れ確認されている。	○	統一された個々のケアが継続できる様に、職員の意識の向上を図って行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行のホーム便りに理念を載せており、写真掲載には、それぞれ理念の思いを活用したりしている。。また、地域の行事に参加させて頂いている。	○	つね日頃から、多様な機会を設けて取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方へ買い物や散歩に出かけ、顔見知りの方に努めたり、地域の方が知人を誘って遊びに来られる事がある。	○	ホームと地域の発信、受信を大切に培って馴染みの関係ができる様、取り組んで行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年恒例の地域のヘトマト・チャンココ見学、駅伝の応援を行っている。また地区の中学生のボランティアの活動もある。今年は初めて、地区の夏祭りに参加させて頂いた。	○	出来ることから少しずつ、活動の場面を積極的に広げて行きたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護者教室に於いて、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を行った。また、実習生の受け入れも行っている。	○	多様な機会を利用し、地域貢献に取り組んで行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する事により、意義の再確認、サービスの質の向上へ活かす事ができる様、情報共有に努め取り組んでいます。また、外部評価の結果は会議の際報告し、更なる改善へ努めています。	○	職員の意識付けを図り、改善項目の具体策の検討、実践へ向け今後も取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予め資料配布を行い、心身の状況、行事の実施・計画の報告を行っている。様々な観点から要望、意見、助言を頂きながら、更なる検討を行い実施へ向け取り組んでいる。全職員への報告。	○	今後も情報交換を活かしながら、サービスの質の向上また、地域、市町村との関係・理解をより深めていきたい。そして、これからも利用者の方が安心して参加できるよう考慮していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的なホーム便りを配布させて頂きながら、市町村との接する機会に取り組んでいる。	○	接する機会を継続的に行い、事業所の課題解決にむけ協働関係へ繋げて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についての研修を受け、会議の際に研修の報告を行い、必要に応じ資料配布、説明をおこない理解を深めるよう取り組んでいる。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の設置により、虐待に対して課題を見出し、防止に取り組んでいる。会議の際に検討を行い意識付けを図っている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問、不信感を抱くことがない様に、出来る限り理解しやすい様に説明を行い、質問にお答えし納得して頂けるように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	安心して話せる雰囲気づくりに努め、声掛けや職員からの情報収集をおこない、不利な立場にならぬようその都度、苦情対応を図りながら取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り、実行表、夕食会、面会時、電話、訪問時などに報告をおこなっている。また、写真の送付やビデオ鑑賞をしたり必要に応じて随時対応し、連絡を行っている。	○	伝えそびれや、言いそびれがない様に職員間に於いても一人ひとりの状況の把握に努め、家族に対して適切な対応ができる様に配慮していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時職員との検討会を実施し、その対応策を早期に取り組むように努めている。いつでも相談できる雰囲気作りを心がけ、運営推進会議時に於いても出席者による、助言も頂いている。	○	どの様な些細な事であっても、気軽に話し合える関係作りに努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員誰もが、気付きや意見など自由に話して頂ける様に日頃より配慮し会話に努め、またノートの活用も行いながら運営に反映できる様に努めている。会議の際に意見や提案をして頂いている。	○	意見や提案が益々活発に出され、反映される様に職員との連携に努め、コミュニケーションを育んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員間で連絡、調整を図りながら随時納得、同意の元にお互いが助け合い柔軟に対応されている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等により代わる場合でも、馴染みの関係や支援が途絶える事がない様に、関連施設での受け入れ態勢や、顔見知りによる関わり等、混乱を防ぐ様に配慮している。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に応じた研修の機会の確保や、事業所全体としての年間の研修計画があり、均等に研修が受けられる様に取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に連絡協議会に参加し、事例検討や他事業所との情報交換を行いながら、質の向上に努めている。また、職員間との交流を深める上で施設見学に伺っている。	○	今後も地域の同業者との交流する機会を増やし、活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃の業務の中で話せる雰囲気作りや、勤務体制を利用しての会話、面談時に於けるストレス・悩みの傾聴、理解に努めている。また、適宜研修にて本人のモチベーションの向上に取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年、能力開発シートに向け各自取り組んでおり、勤務体制に於いても時間を組み、意欲・やりがいを保持できる様に配慮されている。	○	個々の意欲が維持でき、達成できる様に取り組んでいく。
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりと聴いて欲しい時、望む時に対応できる雰囲気を重視し、傾聴に配慮している。また、一人ひとりの表情、行動等の変化にも職員間で情報共有しながら随時、不安の軽減に取り組んでいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の環境や取り巻く問題の把握に努め、面会時や訪問時など、いつでも相談できる様に声掛けや、雰囲気作り等に配慮している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の「望むらし」思いを受け入れる事ができる様、心身の状況の変化、把握に努め随時必要に応じた対応、他者との連携に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、ケアマネと情報交換を行いながら、ホームの状況を少しでも理解して頂く為に、見学や、利用者との挨拶や会話などをして頂きながら、不安の軽減に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの残存機能、能力を活かし少しでも自分の存在をアピールできる様、職員間情報共有しなが場面作り、声掛けを行いながら取り組んでいる。	○	一方的な立場になってしまわない様に、お互い様の感謝の念を抱きながら一人ひとりに接していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子、状態の報告を行いながら家族との連携を図り、また協力もして頂きながら取り組んでいる。	○	家族の思いを大切に、情報共有に努めていき連携を図って行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の思いや状況に留意しながら、外出の機会を与えて頂いたり、行事に家族の方に参加して頂くなどよりよい関係作りに取り組んでいる。	○	本人、家族との関係が疎遠にならない様に配慮しながらよりよい関係作りをしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行ったり、関連施設での面会や行事の見学に行き知人と再会できたり関係が途切れない様に取り組んでいる。	○	馴染みの人の面会や場所の機会を設け、関係作りを深めて行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員間での情報共有を念頭に、利用者同士の相性、行動等に配慮し、会話したり助けて頂いたり孤立しない様に留意している。	○	利用者同士の間で悪循環にならない様に、個々の関係がより良いものになる様に努めていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事等における応援や自営店での買い物、会話などに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話、表情や行動等、普段と違う心身の状況の変化に留意し、本人の思いを察し把握できるよう職員同士、また家族との情報交換に努めながら取り組んでいる。	○	今後も意向の把握が困難な場合も、曖昧にする事なく、一人ひとりの暮らし方の真意、把握に取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、親類、知人等の面会、訪問などにより、情報を頂いたり、日々の生活の関わりの中で、本人から話をして頂きながら把握に努めている。	○	本人が触れてほしくない事など、プライバシーに留意しながら生活史の把握に取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活のリズム、ペースを職員間で情報共有に努めながら出来ること、好きなこと、したい事など気付きを大切に、現状の把握に努めている。	○	
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で意見や、思いを伺い反映できるよう努めている。職員間に於いて課題の検討も行いながら、介護計画作成に活かせる様に取り組んでいる。	○	本人、家族の意向がより反映出来るよう、発信に努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の状況の評価をおこなうとともに、状態の変化や状況、要望を伺いながら計画作成に取り組んでいる。	○	本人、家族の意向や状況の変化、職員の情報や気付きなど見過ごす事がない様に取り組んでいきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践、状況等、個々の介護計画実行表へ記載している。また、気づきや心身状況の変化など気づきノートに書き記し職員間で情報共有を行いながら検討している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の安心した暮らしが継続できる様に、馴染みの関係・環境を保ちながら支援に努めている。	○	日々の暮らしの中で本人、家族の状況の変化、要望に応じた支援ができる様、努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事や、中学校の音楽祭の見学・ボランティアによる協働を得ている。	○	今後も協力体制の強化を図りながら、地域との関係作りを図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	一人ひとりの状況や希望に応じて、サービスが受けられる様に、体調に留意しながら対応を図っている。	○	利用者の選択肢を広げる為に、適切に事業所以外のサービスとつなげる様、取り組んでいきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に市職員が参加しており、必要に応じて対応できる。	○	状況を伺いながら、適切に協働し対応していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医に受診されている。また、心身状況に応じて随時、意見や希望を伺いながら医療機関を利用されている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診のおり、相談や助言を伺いながら家族、本人、医師との情報共有を図り、適宜状況に応じて取り組んでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師による相談や関連施設の看護師の定期訪問をして頂きながら健康管理に努めている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連絡、調整を図り、早期に以前の生活に復帰できる様、情報交換を行い対応されている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認し、医師との情報交換を行いながら対策を図り、職員間での方針の共有を行っている。	○	心身の状況の変化を見極め本人、家族にとって最善の方向性へ導かれる様に努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	早期の段階で本人、家族が安心できるよう話し合いをおこない、医療機関の支援体制、事業所の受け入れ態勢の確認をし、状況に応じ随時検討を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、本人に関わる関係者間による十分な検討、話し合いの場の確保、また心身の安定に配慮しながら取り組んでいる。	○	本人、家族の心身状況の変化に留意し、不安の軽減に努め安心した生活が送れるように取り組んでいきたい。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのケアに於いて、心もとない言動やプライバシーの確保がされているか等会議の際、検討をおこない職員全員で尊厳を念頭に取り組んでいる。		職員同士に於いての気付きをうやむやにする事なく、随時検討を行いながら人格の尊重の徹底に努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員間での気づき等、情報共有をおこないながら個々の自己決定が出来るように、選択を広めた場面作りや声掛けをおこなっている。	○	一人ひとり、求めているものは、何か、目配り、気配り、心配りを行いながら出来る限り、希望や願いを引き出し努めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、それぞれに体調や気分の変動があり、今思う時、思いのままに、願いが叶うように暮らして頂ける様に取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域で行きつけたお店があり、自分の好みのヘアスタイルを希望されており、実現をして頂いた。ホームでカットの際も予め希望を伺い対応されている。また、衣類や履物の買い物も自分で選び購入して頂く。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、煮炊きの準備、盛り付け、片付け、味見などそれぞれに出来ること、できそうな事を職員と一緒にして頂き、その雰囲気作りを大切にしている。	○	その人がしてみたいと思う前向きな気持ちを引き出せる様な声かけや場面作りに配慮していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は個々の嗜好を把握しており、好みの飲み物を伺ったり、おやつの際に食べたい物を選んで頂いたりし楽しみの工夫をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターンを職員間で周知し、気持ちよく排泄できる様に対応している。日中、夜間の下着やオムツの検討も心身の状況に応じて取り組んでいる。	○	それぞれに一番心地よいと感じる様な、排泄の支援に取り組んでいきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日により、入る時間を希望されたり、シャワー浴を好んだり、本人の希望を伺いながら対応されたりしている。また、血圧の変動により時間帯を検討したりもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心できる場所が個々にあり、職員も把握している。表情や体調の変化等に配慮しながら、ゆっくりと休んで頂ける様に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合わせてできる事や、できそうな事、得意な事などお願いしたり一緒にして戴き、感謝の言葉を伝える様にしている。ドライブや散歩、外気浴や動物と戯れたり気分転換を図っている。また、本人の好む話や昔の話などをされている。	○	潜在している力が少しでも長く維持できる様、役割や楽しみの場面作りに取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣い程度を貰って持参している方や買い物の際に本人へお金を渡し、支払いをして頂いたりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や天候を考慮しながら、車椅子で散歩したり買い物やドライブに出かけたり、畑を見に行く等していただいている。	○	短時間であっても戸外へ出る機会をつくり、利用者と職員ともストレスの発散や気分転換ができる様に努めていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望での遠出の際には、計画を立て支援している。困難な場合は、家族からの支援も頂いている。勤務の調整をおこない検討している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある場合は、いつでも電話をかけたり、ゆっくりと話して戴ける様、声掛けをおこなっている。本人も安堵されている。	○	手紙を書くのが困難な場合でも、工夫を凝らして支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも都合の良い時間に来所されている。ゆっくりと過ごして戴ける様に、声掛けやお茶菓子を準備している。帰る際には、お礼を伝え職員間で雰囲気作りを大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり定期的に検討会が行われ、日頃の介護に於いて拘束の対象の行為はないか取り組みがされている。職員間の周知徹底に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で声かけや見守りをおこない、本人のペースに合わせている。出て行く時には、一緒に行動を伴にしている。状況に応じて気分転換をして頂き、安全を図っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士、常に目配り気配り、心配りをおこないながら利用者の安否の確認、持ち場を離れる時の声掛けをしている。夜間は、時間毎に見回りし随時安全に配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況に応じて、装飾品や刃物、切れ物等の置き場所や取り扱いなど、職員間で検討を行いながら、対応されている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ひやりはっと報告書があり、検討会時にその予防、対応策の共有理解を図り、再発防止に取り組んでいる。研修等の勉強にも参加。	○	報告書の具体的な記録、一人ひとりのリスクの周知徹底に努めていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力による定期的な研修が行われ職員全員が参加し、習得にむけ取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署や防災設備会社の協力を経て避難訓練、消火器の使用方法などの訓練を定期的実施している。また研修にて情報収集も図っている。	○	地域との関わりを蜜に図りながら、協力体制の助言、強化に努めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	心身状態の変化や暮らしの様子、それに伴う職員の対応策を報告をおこない、できる限り来所の機会をつくり、説明し理解を得られる様に努めている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の健康状態の変化や異変などミーティングにて把握し、職員同士の気づき、情報交換を蜜におこないながら、随時早期対応に努めている。また、訪問看護による助言などもある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の変更や、状態の変化などチェックし、記録をおこない、全職員が内容の把握ができる様に取り組んでいる。また、状態の変化や様子など家族、医療機関への報告も行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や水分、食事摂取量の把握、本人に合わせた運動など行いながら、できるだけ自然排便にむけ努めている。服薬の際は、個々の状態にあわせた助言をいただきながら対応を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔や状況に応じた毎食後の歯磨きや、うがいをやっている。口腔ケアについて、施設全体の研修会や、状況に応じて個別による助言もいただきながら対応を図っている。	○	個々の、心身状態の変化にともなう口腔ケアのあり方の周知に努めていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事形態、調理法、食材を考慮し食事、水分摂取量の記録をおこない、おおまかに栄養摂取量を把握している。その人の状態に応じた食事支援を行い、必要に応じて栄養士やST等に助言をいただいている。また、調	○	家族、職員間で情報や気付き、アイデアを出し合いながら、本人の食生活の支援に努めていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにより実行されており、研修の参加や情報収集も行い早期発見、対応に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食材の賞味期限の確認、台所・調理用具等の点検を行いチェック表に記録をし、衛生管理に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺には、四季折々の花や垣根、庭には芝生がありスロープや手すりの設置にて安全・安心に配慮し明るく、親しみやすい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の和室には、仏壇、床の間、押入れ、テレビ等設置し、家庭的な雰囲気をつくり配慮し、玄関周辺には、芝生、垣根や四季の花々、畑には季節の野菜が植えている。廊下のソファは個々の落ち着いた場所があり、自然な光、音、鳥のさえずり等考慮している。	○	利用者や家族、外来者の感想や気づきを聴きながら暮らしの場を整えていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、個々の落ち着いた場所があり、和室では、各々にゆっくりできるスペースの確保がある。廊下には、ソファも置き好きな様に過ごしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	予め本人、家族と相談し馴染みの物品、テレビ、仏壇、衣装箱、冷蔵庫、布団、写真など持参して頂き安心してゆっくりと過ごせる様に取り組んでいる。	○	本人の持ち物が少ない場合においても、本人の意向を確認しながらその人らしい暮らしができる様に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、各部屋の窓を開け換気している。部屋には温度計、湿度計を設置し個々の状況に応じて、温度調節を行っている。玄関やトイレの臭気対応もこまめに行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行安定の為の手すり、浴槽の滑り止め、玄関・外庭スロープの設置。また洗面台、台所の流し、物干し、筆筒の高さ等、利用者の視点で配慮している。車椅子を使用している方は、自分に見合った物を検討されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	風呂場は、「伊」の温度マークをつき、トイレ2箇所には、廊下から見える様に矢印と絵のシールをドアのガラスに貼っている。各部屋には表札、写真、視点到合わせた氏名や番号等で確認をしている。全盲の方のドアには、鈴つきのぬいぐるみを取り付けており、状況に応じて検討している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周には、芝生があり椅子を置いたり、敷物でくつろいだり外気浴を楽しむ。畑には、季節の野菜を植え、収穫の喜びや楽しみを味わったり、花壇やプランターの手入れも行っている。また、スロープの場所から花火や景色を眺めることもできる。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない